

# もも管理特報 No.3

令和3年4月20日  
みな穂もも振興会  
みな穂農業協同組合  
富山県新川農林振興センター

## 1 生育状況

- 管内産地の「あかつき」は、4月9日～13日の高温で一斉に開花し、開花盛期は4月12日～13日頃で平年並みだった。
- 管内産地の「川中島白桃」の開花始期は4月12～13日頃、盛期は4月17日頃でいずれも平年並みだった。しかし、開花始期以降の低温で盛期は14日～17日頃と園地によってばらつきが生じた。

<参考>果樹研究センター開花状況

年次	あかつき		川中島白桃	
	始期	盛期	始期	盛期
R4年	4/9	4/11	4/12	4/14
R3年	3/30	4/3	4/3	4/5
平年	4/9	4/12	4/12	4/15

<参考：果樹研究センター実測値>

- 「あかつき」の開花盛期は、4月11日で、前年より8日遅く、平年より1日早かった。
- 「川中島白桃」の開花盛期は、4月14日で、前年より9日遅く、平年より1日早かった。

## 2 病害虫防除

### <ポイント>

- 開花期～5月下旬までは、せん孔細菌病の重要防除時期であることから、耕種的防除の徹底（防風ネットの設置、春型枝病斑の切除）と適期の薬剤防除を心がける。
- せん孔細菌病対策向けの抗生物質系殺菌剤（マイコシールド、バリダシン液剤5等）は、残効期間が短いため、散布間隔を10日以内とし、降雨前の散布を心がける。

### (1) 薬剤防除

【結実樹】

回数	散布時期の目安	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		(参考) 水100ℓ 当たり 薬剤量	散布量 ℓ/10a	防除実施日 (自己記入)
4 ※1	4/26 ～28頃	せん孔細菌病	スターナ水和剤 (展着剤 マリノ)	1,000倍 20,000倍	100g 5cc	350	
5 ※2	5/6 ～8頃	黒星病、灰星病 せん孔細菌病 ホモフシス腐敗病 せん孔細菌病	デランフロアブル  バリダシン液剤5 (展着剤 マリノ)	600倍  500倍 20,000倍	166cc  200cc 5cc	350	
6	5/16 ～18頃	せん孔細菌病 モモハモグリガ アブラムシ類	マイコシールド  アドマイヤー水和剤 (展着剤 マリノ)	2,000倍  2,000倍 20,000倍	50g  50g 5cc	400	

※1 前年、モモハモグリガやナシヒメシンクイによる心折れが多発した園では、モスピラン顆粒水溶剤（4,000倍、収穫前日まで、3回以内）を加用する。

※2 前年、モモハモグリガの多発した園では、コンフューザーMMを10aあたり100本設置する。

## 【未結実樹】

回数	散布時期の目安	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		水100% 当たり 薬剤量	散布量 %10a	防除実施日 (自己記入)
4	5/6 ～8頃	黒星病、灰星病 せん孔細菌病 ホモプシス腐敗病	デランフロアブル  (展着剤 マリノ)	600倍  20,000倍	166cc  5cc	100	

## (2) 耕種的防除

### (せん孔細菌病の春型枝病斑対策)

- ・芽の枯れ込み、葉芽の奇形・不発芽、枝が黒～褐色に変色等の春型枝病斑がある枝を切除し、園地外で処分する（写真1）。
- ・作業は5月下旬頃まで複数回実施し、病斑枝の除去を徹底する。

### (灰星病対策)

- ・「花腐れ症状」の発生している枝の除去を徹底する（写真2）。

### (縮葉病対策)

- ・前年、縮葉病が多発した園では、罹病葉を摘除し、園地外で処分する（写真3）。



写真1  
せん孔細菌病の「春型枝病斑」



写真2  
灰星病の「花腐れ症」



写真3  
縮葉病の罹病葉

## 3 今後の管理

### (1) 予備摘果

- ・最終着果量の2～3倍を目安に、満開後20日（「あかつき」では5月2日頃）から開始し、果実の初期肥大の促進を図る。
- ・開花の早い品種や樹から、着果状況や幼果の傷、果形の乱れを確認しながら丁寧に実施する。

#### 着果量の目安

結果枝		着果量	
種類	長さ	(早期摘果または) 予備摘果後	仕上げ摘果後
短果枝	5～10cm	1本に1果	3～4本に1果
中果枝	10～30cm	1本に1～2果	1～2本に1果
長果枝	30～50cm	1本に3～5果	1本に2～3果
極長果枝	50cm以上	1本に6～7果	1本に4～5果

※若木は、樹勢が強く生理落果しやすいので、仕上げ摘果後の着果量を1～2割多くする。

## (2) 弱樹勢樹対策

- ・他の樹に比べて、①展葉が遅い、②展葉後の葉色が薄い、③新梢の伸長が悪い等の兆候がみられる弱樹勢樹は、兆候を確認した時点で、すべての幼果を摘果し、硫酸の追肥を行う。 ※管理情報No. 2参照

## (3) 苗木、幼木の管理

- ・定植した苗木は、土壌水分の変動に弱いため、土壌からの蒸散が増える5月中下旬までにマルチを設置し、こまめに株元にかん水を行う。

## 4 農作業安全等

- ・農作業事故防止のための自園地の危険な場所の把握等、基本的な対策を再度確認し、徹底する。
- ・十分な睡眠をとり、作業前に準備運動を行うことや、作業中は適度に休憩をとることなど、体調管理に留意する。
- ・SSや乗用草刈機、刈払機の整備、点検やトラブルが発生した場合は、必ずエンジンを停止して実施する。
- ・脚立は、チェーンをかけて使用し、最上段には上がらない。
- ・農薬散布にあたっては、①ラベルを必ず確認する、②周辺の作物や住宅への飛散に注意して実施する。

### ○4月中旬～5月 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
防除の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 散布ムラが生じないように丁寧に散布する</li> <li>・ 散布間隔は10日を目安に実施する。散布予定日が降雨の予報である場合は、前倒しで実施する（降雨前に散布）</li> </ul> ※2 病虫害防除（1）参照			
春型枝病斑の切除	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 落花期以降に症状が発見しやすくなる</li> <li>・ 症状のある部分の枝を切除し、園地外で処分する</li> <li>・ 予備摘果時期以外でも、発見次第、必ず切除する</li> </ul> ※2 病虫害防除（2）参照	落花期以降～予備摘果時期		
予備摘果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主枝・亜主枝先端や伸ばしたい枝は全て摘果する</li> <li>・ 最終着果量の2～3倍の量の果実を残す</li> <li>・ 田植え作業と競合するので、作業時期・作業人数の確保に留意する</li> </ul> ※3 今後の管理（1）参照	◆「あかつき」 5/2～5/12頃 (満開20～30日後)		
弱樹勢樹対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全ての花蕾を摘み取り、追肥を行う</li> </ul>	兆候を確認した時点		
苗木の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定植した苗木は、土壌水分の変動に弱いため、マルチを設置し、こまめにかん水を行う</li> </ul>	定植後、随時		

・農薬散布時は、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。